

〔新撰字鏡〕女爆力刀反去嬀也。

〔類聚名義抄〕口啗吝俗吝字〔同心〕吝力刃切部悒悒力進反悒悒ヤフサカシム和リムサホル悒俗

〔伊呂波字類抄〕也悒悒字吝ヤフサシ悒編已上同

〔書言字考節用集〕九言辭吝吝而不施謂之吝吝吝並同

〔倭訓栞〕前編三十四やぶさか 吝又吝をよめり破離の義成べし吝嗇なれば事破れ人離るべし、

〔老人雜話〕上太閤○豐吉臣心も辭も行跡も少も吝さかなることなき生質也○下

〔書言字考節用集〕九言辭吝吝於財王肅云短吝也吝甚也 鄙吝漢書黃悒悒心

〔倭訓栞〕前編十一しわし 鄙吝をいふ皺より出たるにやしわつこいともしわつけなしともいふなり、

〔足薪翁記〕「とりんぼう

しわん坊 崑山集慶安四年 花守の見せぬはしわんぼたん哉 一宣略○中

花千句延年 寺を出ても猶しわん坊 季吟

たとひおく彼名物の柿のさね 湖春柳云しわん坊今童のいふ柿の事なり

元祿二年大三物 しわん坊隣の豆に聲すなり 露重

〔伊呂波字類抄〕利悒悒字悒惜

〔運歩色葉集〕利悒悒氣 悒惜

〔書言字考節用集〕八言辭悒悒惜 悒氣

〔下學集〕下悒悒字悒吝

〔梅園叢書〕吝嗇儉約の辨

吝嗇はしわきなり儉約は始末なりおなじ事の如く心得たらんは僻事なりその跡似たりとい